



感染症週報

(三宅管内感染症発生動向調査報告)



令和7(2025)年 第50週 (12/8 ~ 12/14) 定点把握対象疾患について

三宅島 感染性胃腸炎 : 10件

御藏島 感染症の報告はありません

(三宅管内感染症発生動向調査より集計)



東京都の注目される定点把握対象疾患 【東京都感染症週報 第49週】

・インフルエンザの定点当たり報告数は、25.17で先週(35.76)より減少しています。

警報レベル継続中!
予防策を徹底してください!

島しょの情報(11島の医療機関からの報告) 【第50週 (12/8 ~ 12/14)】

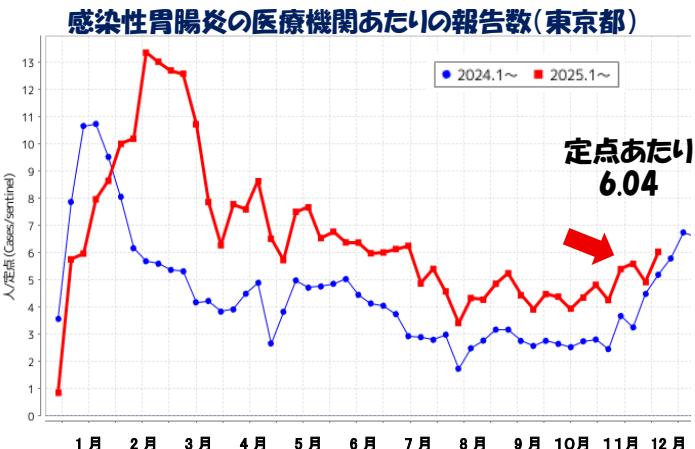
- ・インフルエンザの医療機関あたりの報告数は、1.36で前週(2.45)より減少しています。
- ・感染性胃腸炎の医療機関あたりの報告数は、1.27で前週(0.36)より増加しています。

NEWS 感染性胃腸炎(ノロウイルスなど)に注意

● **感染性胃腸炎**は、例年、11月頃から3月頃にかけて流行します。主な原因ウイルスには、「ノロウイルス」「サポウイルス」「アデノウイルス」「ロタウイルス」などがあり、手指や食品等を介して口から侵入、ヒトの腸管で増殖し、おう吐・下痢・腹痛などの症状を引き起します。多くの健康な人は軽症で済みますが、子どもや高齢者では、脱水症など、重症化のリスクがあるため、体調の変化に注意しましょう。

● **主な感染経路:** ①感染者の吐物・ふん便の処理が不十分で、不十分な手洗いにより、手や環境中に残ったウイルスが体内に入る。②感染者が十分に手を洗わず調理し、食品が汚染され、それを食べて感染する。③病原体ウイルスで汚染されている食品を食べる。

● **感染予防のポイント:** 感染性胃腸炎の原因ウイルスはアルコール消毒の効果が乏しく、流水と石けんでしっかり手洗いを行うことが大切です。とくに排便後、調理前、食事前には、都度手を洗いましょう。また、感染者の吐物やふん便を処理する際は、使い捨ての手袋・マスク・エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウム(塩素系漂白剤)で確実に処理します。処理後は、再び石けんと流水で丁寧に手を洗うことが大切です。ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などは、中心温度 85°C ~ 90°C で 90 秒以上しっかり加熱しましょう。



参考: 東京都感染症発生動向調査(東京都健康安全研究センター)

感染性胃腸炎について(東京都保健医療局)

(編集・発行) 東京都島しょ保健所 三宅出張所
電話 04994-2-0181 FAX 04994-2-1009

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/tousyo/miyake/>



感染性胃腸炎について(東京都保健医療局)



中心部まで十分に加熱!

島しょ保健所三宅出張所管内 感染症発生動向調査

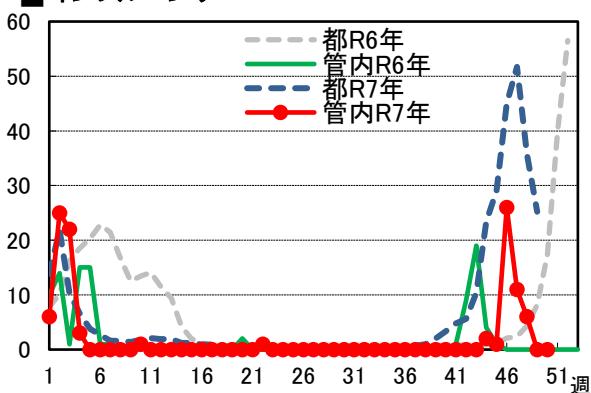
三宅出張所管内 定点把握対象疾患報告数

令和7(2025)年	第 50 週						令和7年	12/8 ~ 12/14
疾病名 (小児科定点及びインフルエンザ /COVID-19定点)	令和7(2025)年						令和7 (2025)年 累計	東京都 定点あたり 49 週
	45 週	46 週	47 週	48 週	49 週	50週		
RSウイルス感染症							0 (0)	0.25
咽頭結膜熱							0 (0)	0.12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎							0 (0)	2.43
感染性胃腸炎	5 (0)			1 (0)		10 (0)	29 (3)	5.41
水 痘							0 (0)	0.31
手 足 口 病	6 (0)	3 (0)					15 (0)	0.14
伝染性紅斑							0 (0)	0.16
突発性発しん							0 (0)	0.22
ヘルパンギーナ							2 (0)	0.10
流行性耳下腺炎							0 (0)	0.03
MCLS(川崎病)							0 (0)	0.02
不明発しん症							0 (0)	0.04
インフルエンザ	2 (0)	1 (1)	26 (1)	11 (0)	6 (0)		104 (5)	44.75
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	1 (0)						68 (28)	1.00

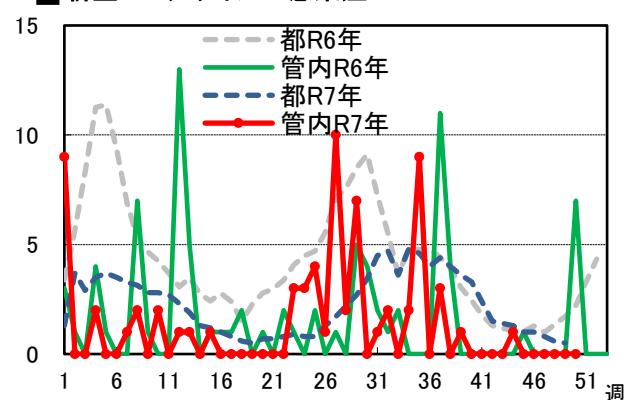
※カッコ内:御蔵島報告数の再掲

【三宅管内】患者報告数推移グラフ(管内とは三宅・御蔵両島の発生数計都是定点あたり発生数)

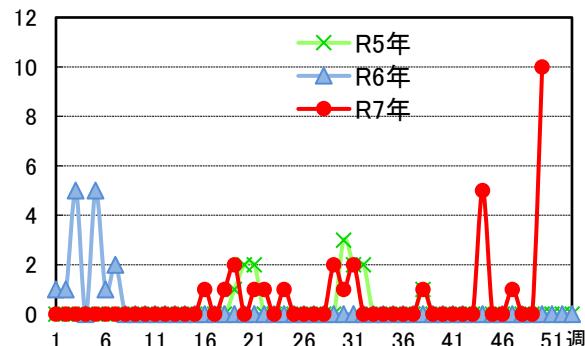
■ インフルエンザ



■ 新型コロナウイルス感染症



■ 感染性胃腸炎



※5類感染症は、感染症発生動向調査を通じ皆さんに情報提供することにより、
感染症の発生および、まん延・拡大を防止することが目的です。